

田邊・長濱・村瀬・三宅・大岡・永田・堀江

七氏の冤を雪ぐ

二月二十三日上野精養軒に開かれた土木疑獄雪冤會は我土木界に於いて重大な意義を持つ盛大な會合であつた。

これは内務技監辰鎌藏氏を初め、佐藤利恭、鈴木雅次、名井九介、中川吉造、生野園六の諸氏が代表發起人となられ、次の七氏の爲に雪冤の慰勞と祝賀の會を催されたのである。

元神奈川縣土木部長	田邊 良忠氏
元長崎縣土木課長	長濱 時雄氏
元奈良縣土木課長	村瀬 吉雄氏
元神奈川縣道路課長	三宅 秀太氏
元横濱市助役	大岡 大三氏
元横濱市電氣局長	永田兵三郎氏
元横濱市水道局長	堀江 勝巳氏

以上の内永田氏は病氣缺席された。

午後六時食堂は開かれ一同着席するや、辰馬氏起ちて、三年數ヶ月の間社會的に全く葬られた御家族の御胸中を察すれば御同情に耐へない、我々元より無實無罪を信じてはゐたが、神ならぬ身の不安を感じてゐた、然るに今日の公明正大なる判決に對し無上の喜を感じる、檢察當局に對し最後まで正義を守つて奮闘を續けられたる事を我土木界の爲に感謝するものである今後は新鮮なる氣持で國家重大の時局に大々御活動を乞ふものである云々と述べ一同拍手を以て之に和し、次いで一同杯を舉げて七氏の爲に祝意を表した。

次いで大岡大三氏起ち、今夕の雪冤慰勞の催に對する謝辭を述べ、此の土木疑獄事件が實に複雑にして、他の帝人事件などに比し異なる特性ハク條を舉げ、審理の經過内容等を説明し、檢事の不當及び現行法に遺憾の點あるを力説し、獄中の所懐を一首の歌に托して、苦衷を述べられた。

次いで鈴木雅次博士の司會で別室に移り、名井博士の司會で有志の祝賀演説に移つた。元横濱市長有吉忠一氏先づ壇上に進み、自分は此疑獄事件に連座された諸氏が必ず今日の事あるべきを信じてゐたが、然し無罪の判決のある迄には中島裁判長の悲壯な決心と、辯護士諸君の獻身的努力に對しても感謝しなければならぬ。而して今回の事件を唯各位の

災難としてのみ濟されない、國家的にも個人的にも大なる損害であるから、今後は斯る事のない様に法の改正に就て盡力したいと思ふ云々。

次いで此の土木疑獄事件の無法なる檢舉の爲に終始獻身的努力を以て盡力したる辯護士一松氏の經過報告ありて、本事件が實に甚しき人権蹂躪を極めたもので、特に神奈川縣に於ける檢察當局の不當なる點に抗爭したる事情を述べ、本件は遂に晴天白日の判決を得るに至つたが、尙國家の爲に法の改正に努力しつゝある事を述べ。

次に京大教授瀧川與氏起ちて、土木技術家は實に正直なものであるが、常に危険なる職務に晒されてゐる、有吉長官の如き土木官に理解ある人ですら、常に疑を以て見られたのであるから、一般世人は尙更ら無實などには思はなかつたであらう、然るに最後迄無實を主張して信念を通された事は、誤解を受け易い一般土木家の名譽の爲に感謝する云々。

次いで愛知縣土木部長山口十一郎氏起ち、神奈川縣下に今回の事件發生當時私は廣島縣にゐたが、檢舉の嵐が擴大するにつれ世人の噂は土木技術官に對して實に慘酷なものであつた、此間に連座されたる不幸なる諸士が三年餘も正義を主張して遂に青天白日の身となられた事は感謝に耐へない、恰も國家非常時局に際し各位のなすべき事は多い、益々御健闘を乞ふと述べ。

次いで宮本博士より地方からの祝電を發表し、

最後に田邊良忠氏起ち、盛大なる雪冤會に對し感謝の辭を述べ、少年時代に訓誨を受けた麴町小學校長原房之助氏の列席された事を謝し且つ紹介し、疑獄事件に對し不當檢舉をなしたる檢事局の惡逆暴戾なる手段と態度の真相を發表された。之は實に聞く者をして今日の文化を誇る我日本の都市に於て果して斯の如き行爲があるかを疑はしむる程の人権蹂躪の事實である、此點田邊氏の語調は熱して火を噴くが如く、今日自分達が青天白日の身となつたに對し、松井檢事正は引責辭し、他の若手檢事其々氏等は何れも遠く左遷されてゐる、斯くしても土木技術官果して不當なるや、と壇を叩いて熱叫し、滿堂亦熱して拍手を送る。